

# 南・緑ブロック学習会

平成 31 年 1 月 10 日



みなみ先生  
採用 4 年目  
若手世代

第 5 回南・緑ブロック学習会が熱田区南養護学校本校で行われました。

「子どもの理解を深める」第二弾として①アセスメントについて②交流及び共同学習の実践③訪問教育について④専門家チームについてという豪華な四部構成で学習会を行いました。



みどり先生  
採用 8 年目  
ミドル世代

## 1 アセスメントについて【大高北小学校：鉄井先生】

アセスメント (assessment) とは「教育や発達支援の現場においては子どもの状態 (学習・行動・心理等) を丁寧に把握し、子どもの発達課題を見定めること」と言えます。一見、子どもたちの状態を把握しているつもりでも、もしかすると「思い込み」や「大人の都合」という勝手な解釈が生じてしまう可能性もあります。子ども理解を深めるために、発達段階や客観的事実という物差しを活用していきたいですね。引用：梅永雄二 島田博祐編著「障害児者の教育と生涯発達支援 (第 3 版)」北樹出版

「できる」「できない」という二つの指標だけではなく、「でき方」や「できなさ」の変化も把握していくことが重要です。「できなさ」の変化や違いに気付くことが次の指導支援につながるといいます。

子どもにとっての「困難さ」を分かったつもりになっていましたが、実は曖昧な捉え方しかできていなかったのかもしれない。



何のために見るのか、意識をもって姿を捉えることが大切ね。

そうですね。そして、アセスメントをして終わりではなく、どのように指導に生かしていくのかを考えていきたいと思っています。



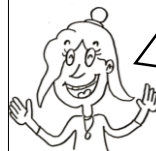
## 2 交流及び共同学習について【鳴海小学校：小川先生】

小川先生は、交流及び共同学習を通して通常の学級の児童に向けた障害理解教育を行っています。「特別支援学級の児童に学びがあるのはもちろんのこと、通常の学級の児童にも学びがあることが交流及び共同学習として大切」と語る小川先生。積極的に通常の学級と関わり合い、通常の学級でも様々な授業をされています。



### <通常の学級で行う授業例>

- ①導入 特別支援学級〇×クイズ
- ②展開 1 (知識理解) 障害って何? (学年に応じて)
- ③展開 2 (体験活動) 「困難さがある」とはこんな感じ体験
- ④まとめ 振り返りクイズ・絵本の紹介など

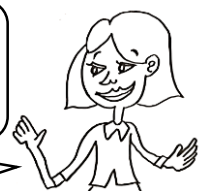


小川先生は、特別支援学級と通常の学級に在籍する子どもたちがお互いの様子を知りきっかけをつくり、サポートしているんですね。



でも…先日、通常の学級の子もたちに「特別支援学級ってどういうところ?」と聞かれて、どうやって説明したらいいか悩んでしまいました…

そうなのね。みなさんなら、どうやって子どもたちに伝えますか?



小川先生は、お話の中で「自分のペースで頑張っている子どもたちの学級」と伝えていたわね。「違い」があることが悪いことではなくて「違い」を認め合える関係をお互いに築いていくことが大切ね。



そうですね！この学級だからこそ、よりよく輝ける子どもたちですよ！

そう。学び方に「ちがひ」がある、「おなじ」子どもたちなの。

交流及び共同学習の素敵な実践がさらに増えていくといいですね！



### 3 訪問教育について【南養護学校：長江先生】

長江先生からは、訪問教育での指導の様子や課題について、話を伺いました。

児童との信頼関係はもちろん、保護者とも信頼関係を築き、子どもの

ために一緒に成長を考えていくことが重要です。障害の状態や治療、健康面などについて留意することが多くあります。

ときには、子どもたちの「命」や「生き方」などに向き合うこともあるのです。みなさんは、訪問教育にどのようなイメージをもっているのでしょうか。

・訪問教育とは「障害のため通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して、教員を派遣して教育を行う」こと。

・訪問教育は「授業時数が限られ、児童生徒の体調も変化しやすいことから、児童生徒のもてる力を最大限引き出すためには指導内容の一層の精選が必要となる。」

引用：文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』



きめ細やかな配慮と、子どもに応じた指導支援の工夫がとても必要なんですね。

子どもや保護者によっては、集団への参加や友達との関わりが少なく、社会とのつながりも希薄になってしまうこともあるの。だからこそ、社会との接続をサポートしたり、訪問教育の担当者だけでなく学校全体で訪問教育を充実させたりしていく校内体制を整えていくことも重要な課題なのね。

### 4 専門家チームの活動から学んだこと【南養護学校：高柳先生】

名古屋市特別支援教育専門家チームのコーディネーターとして活動した記録や経験を参考にしながら、通常の学級での特別支援教育の現状をみなさんで考えました。

相談件数として小学校1年生が1番多く、その後減少していきます。幼保小の連携に少し課題があるのかもしれませんが。

また、現場の先生方からの質問に対して特別支援教育コーディネーターとして高柳先生が答えた「Q&A」をいくつか紹介されました。現場の先生の困り感は子どもたちの困り感でもあります。コーディネーターや専門家チームの先生方が、名古屋市の子どもたち、先生方をこのように支えているのです。

地域を担当する特別支援教育コーディネーターだけでなく、校内コーディネーター、そして地域のセンター的機能という役割をもった特別支援学校が中心となって地域の学校をつなげることによって、これから特別支援教育をもっと推進していくことに期待ですね。



☆次回第4回全体学習会開催予定☆ 2月28日（木）18:30～ 教育館講堂【会員の皆様へ】

5回にわたるブロック学習会へのご参加ありがとうございました。これからも共に学び、共に特別支援教育の価値を高めていきましょう。

南・緑ブロック学習会担当者一同  
文責：鉄井史人 イラスト：安藤英吾